

教育委員会会議の概要（令和7年9月定例会）

- ◆ 日 時 令和7年9月26日（金）午前9時00分から午前9時25分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	天 野 元	出席
委員・教育長職務代理者	佐 藤 淳 一	出席
委 員	山 田 理 恵	出席
委 員	庄 司 弘 美	出席
委 員	長谷川 真里	出席
委 員	永 富 良 一	出席
委 員	松 野 大 二 郎	出席

◆ 会議の概要

1 開 会

2 議事録の承認 8月定例会

3 議事録署名委員の指名 永 富 委 員

4 報 告 事 項

（1）教育委員会委員の任命について（口頭）

（総務課長 報告）

口頭で報告

（2）「ファイナンスパーク」実施方法の変更について

（学びの連携推進室長 報告）

資料に基づき報告

松 野 委 員 ファイナンスパーク自体、会場に行き、こどもたちもその雰囲気を感じ、そこで生活のきっかけを学ぶというイメージでいるのだが、活動場所が各学校となった場合、例えばレイアウトなどは従来通りの教室となるのか。

学びの連携推進室長 子ども体験プラザを会場にすると、13のブースが設置されており、こどもたちは自分たちの学校の教室から離れて、会場を別にするということ、また、そのようなブースが並んでいるスペースで学習することにより、意欲的な部分で、一定程度の効果は

あるのではないかと考えているが、学習内容については、1か月の生活の支出計画を立てながら生活設計を学ぶこととなるため、活動内容自体はこれまでと同様の内容が実施できると考えている。

また、雰囲気については、教室が会場とはなるが、担当している職員の進め方によってその部分は補うことができるのではないかと考えている。

佐 藤 委 員 何点か教えていただきたい。

子ども体験プラザを仙台市が立ち上げた際には、既に東京や京都が先行して展開しており、震災復興の一つであるカタール支援として、いわき市と本市が取り組んできたが、当時は、今後おそらくこの事業が全国展開され、福岡や札幌のような大都市、ほかの中都市にも広がっていくのではないかとという勢いがあったのだが、私が得た情報では、京都が撤退、それから福岡県飯塚市が2年ほど前に始めたということだが、そのような現状認識でよいのかということ、また、そのようなプログラムを所管する担当室としてどのように認識しているのか教えていただきたい。

学びの連携推進室長 全国に展開されている子ども体験プラザのプログラムについては、おっしゃるとおり飯塚市が数年前から参加し、現在、品川区、いわき市、仙台市の4か所で展開されている。

プログラム内容については、本市で進めている仙台自分づくり教育において、小学生にとっては貴重な職業体験の一つであり、すばらしいプログラムであると考えている。

また、中学生においても、生活設計を行うということで、大人の生活を体験することができ、今後の将来に向けて考えるきっかけの一つになっているのではないかと捉えている。

佐 藤 委 員 4都市で展開されているとのことで、モバイル・ファイナンスパークの場合は、会場設定が要らず、場所が学校であるという利点があるかと思うが、その4都市の中で既に取り組んでいるところがあるのかということ、会場がなくても実施できるという利点に関して、ほかの自治体でも実施しているという情報があるのか確認したい。

学びの連携推進室長 モバイル・ファイナンスパークについては、品川区で先行して実施されており、本市としても昨年度、視察を行ったところである。また、モバイル・ファイナンスパークをほかの自治体で実施しているという情報は、現時点で学びの連携推進室には入っていない状況である。

佐 藤 委 員 コロナ禍の際に、ファイナンスパークを学校の要望に応え、対面式で、サイトマネージャーが訪れる形で実施していたわけである。先ほどの松野委員からの質問と絡むのだが、おそらくそのときの学習効果と、現時点での学習効果を評価した上で、学校現場でも問題ないという判断で今回の結論に至ったと思うのだが、先ほど説明があったように、認識としては学校現場の負担減と考えてよろしいか。

学びの連携推進室長 移動に係る時間の削減や、引率に係る教員の負担という意味で、負担軽減につながるものと考えている。

佐 藤 委 員 最後に1点。学校において、このような形で事業を展開していくことを考えたときに、例えば学校裁量で選択をし、この事業をしないという判断をするような将来性までを視野に入れて考えているのか、実際の考えを聞かせていただきたい。

学びの連携推進室長 仙台自分づくり教育について、今後の方針を今まさに検討しているところである。その中の一つとして、学びの連携推進室で所管している子ども体験プラザ事業につい

でも、希望制、悉皆、そのようなところも含めて、今後どのような形で実施するのがよいか検討している状況である。

佐藤委員 私の考えとして、できるだけ学校裁量や選択という形で、学校に様々な権限があり、より学校のねらいに沿い、集中した、学校独自の教育ができることが望ましいという考えがあるため、そのような検討や、スクラップができるものがあるのかということも含めて考えていただければと思っている。

永富委員 私もファイナンスパークを今ここで知り、生活設計ということで、重要な体験になると思うのだが、仙台市だと I N T I L A Q が、小学生、中学生向けの起業教育を行っており、例えば会社の社長になったらどのようなことを考えて、どのような準備をしたら会社が動くのかといったことを、小中学生の時点で考えるチャンスを与えている。もちろん全員に対してではなく、希望者に対するプログラムとして提供しているわけだが、このような起業家プログラム、アントレプレナー教育が全国的に広がってきており、大学生、大学院生だけのものではなく、若い頃からこのような活動を行うことが進められている。

何かそのようなチャンスと接続する機会があればよいということで、実施方法を変更したことにより、今すぐに何かを起こしてほしいということではないが、そういった期待がある。現場の先生方の負担等もあるので、そこは可能な範囲でということになると思うのだが、前向きな提案として、そのようなことを考えた。

学びの連携推進室長 今後の仙台自分づくり教育を考えていく上で、委員のご意見も参考にしながら検討してまいりたい。

松野委員 このファイナンスパーク自体、保護者や地域のボランティアを募集する際に、どうしても学校で苦慮していることは、P T A で関わっていたこともあり、感じていたことである。自分の学校の事情しか分からないのだが、全体を通して全く足りていないのか。

学びの連携推進室長 ファイナンスパークについては、基本的には中学校でボランティアを集めており、現在正確な数字は持ち合わせていないのだが、およそ半数の中学校が全てのボランティアを集めている。残りの半数については、必要な人数を全員集めることが難しい状況となっており、そのような中学校に対しては、本市で確保している登録ボランティアに協力いただいて補充している状況である。

松野委員 現在、保護者がボランティアに行く際は、近隣の駅から会場まで向かっているが、学校を会場にした場合、私たちの学校では車で来る人たちが多くなるかと思う。そうになると、駐車場の誘導など、かえって先生方の負担が増えてくるのではないかというのが率直な意見である。

また、ボランティアが足りないところは、登録ボランティアで補っているということを含めて、駅の近くの学校もあれば、駅から大分離れている学校もあるので、その場合の交通手段について、ある程度学校によって見極めていただけるとすごくありがたいと思う。

学びの連携推進室長 学校については、駐車場の問題や、車で来校が難しいところもあると認識している。学校開催とすることにより、必要となるボランティア数については、学びの連携推進室でも検討しながら学校と相談して進めてまいりたい。

山田委員 ファイナンスパークの活動場所を各学校へ変更するのは令和8年度からで、全てモバイル・ファイナンスパークになるということか。

学びの連携推進室長 令和8年度より、各学校を会場として、モバイル・ファイナンスパークを実施することとなる。

山 田 委 員 そうなると、その場に各企業がいるわけではなく、生徒が1人1台端末を見ながら、画面越しに各企業がいるというイメージなのか。

学びの連携推進室長 これまで子ども体験プラザで行っていたファイナンスパークについては、ブースを各企業の方に設置いただいていたが、実際の活動内容としては、企業の方はその場にはおらず、そのブースから生活設計をする上での費目についての情報を収集するものとなっている。各学校で実施することに伴い、企業の方に来ていただくということは、これまでと同様に、ファイナンスパークにおいてはしない。

山 田 委 員 では、そのようなソフトを用いて実施するという意味か。

学びの連携推進室長 1人1台端末を活用し、その中で情報を入手し、生活設計を考えていくというものが、モバイル・ファイナンスパークということになる。

山 田 委 員 そうすると、先ほどお話があった保護者やボランティアの方は、どの部分に関わるのか。

学びの連携推進室長 これまでは、生徒が6人グループを組み、そのグループに1名ずつボランティアの方に入ってもらいながら、こどもたちが1か月の生活設計を考える上で、1か月の手取り月収から、どのような品目ごとに商品を選び、お金をかけていくかということを考えていく際に、中学生の場合はどれぐらいお金を使ったらよいか、1か月でどのようなものを購入しているのか分からないことがあるため、そのようなところでアドバイスをいただく形となる。現在、各学校においても、形式やグループは変えていないが、これまでと同様にボランティアの方に入ってもらいながら、こどもたちへのアドバイスをしていただくことを考えている。

山 田 委 員 形式は理解したが、おそらくボランティアの方によって、アドバイスの仕方も大分違うのではないかとと思われる。

教 育 長 現在のファイナンスパークは、現実に近い店舗に行き、情報を集めてくる形式だが、最近は家計簿もスマホでつけるなど、実際問題として、インターネット上で情報を集め、家計簿をつけるということが、フィンテックの進展と共に、こどもたちが大人になる頃にはますます普通のことになると考えられるため、実際の店舗に行くよりも、インターネットで情報を集めてくるほうが、リアリティーが非常に高いのだろうと感じる。

今般、モバイル・ファイナンスパークについては、各社のホームページがモバイル・ファイナンスパークの中に用意されており、そこから必要な情報を調べてきて、自分の家計簿を作っていくという形となるため、実際には、よりリアリティーのある手法であると感じる。

それに付随して、移動時間がなくなることで、教師の負担、それから生徒自身の負担がなくなり、時代に合わせた形となるのではないかと考えている。

庄 司 委 員 ファイナンスパークにしても、小学生のスチューデントシティにしても、こどもたちがこれから生きていく上で大変重要な役割の時間だと思う。

ファイナンスパークの場合、ボランティアに関わる方も事前に説明を受けており、ボランティアを引き受けたからといって、急にその場に行きアドバイスすることはできないということで、ボランティアに関わる方も事前に知識を入れるなど、非常に大変だという話も伺っている。

モバイル・ファイナンスパークになり、学校で実施するという事になれば、これまでに体験した子どもたちから見れば、環境が変わることで様々なことがあるかもしれないが、やはり子どもたちにとっても移動時間がないということや、お昼の問題で、これまではお弁当を持っていく必要があったが、従来通り給食を学校で食べるということで、子どもたちにとっては環境があまり変わらずに実施できることはよいことであると感じる部分もあるが、校外学習のように外に出ることで、子どもたちがわくわくすると考える部分もあるため、どちらを取ればよいか考えるところではある。いずれにしても、子どもたちにとってよい方向性で進めていけたらよいと感じた。

学びの連携推進室長 各学校を会場にすることによるメリットもたくさんあり、あとは各学校においてどのような進め方をするかということが重要であると考えているため、その点について、令和8年度に向けて考えてまいりたい。

5 閉 会